

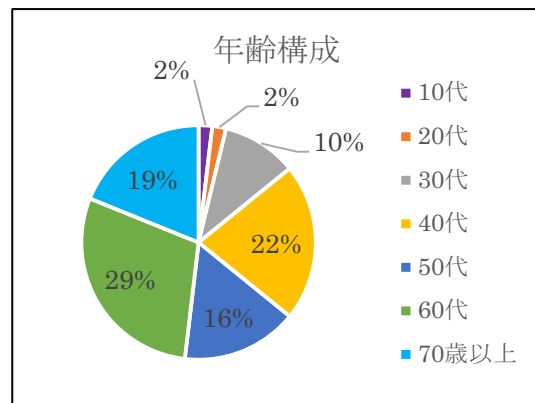
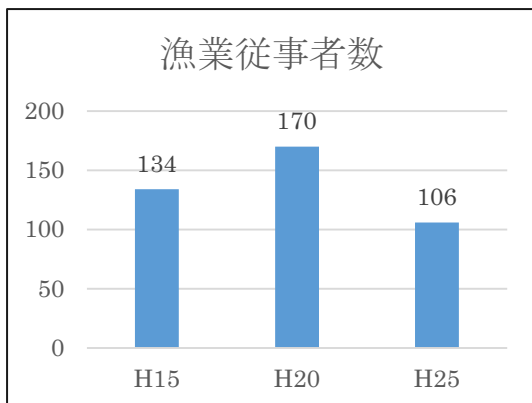
江差の漁業

概況

漁業従事者数は平成 25 年 106 名（漁業センサス）と、大幅に減少しています。平成 25 年の漁業従事者年齢構成では、60 歳以上が 48%となりました。

課題

従事者の高齢化が進んでいる現状において、次世代の担い手にとっても魅力ある前浜・磯根資源づくりとその利用策が課題となっています。



成果のあった施策の紹介

- ・ ひやま地域ニシン復興対策
地場産ニシンを活用し、採卵、ふ化させ放流。
- ・ 地産地消の推進
地場産ニシンを冷凍保管し、年間を通して販売・提供。
- ・ 水産物の付加価値向上
フリーズドライナマコ、加工する際の未利用資源を活用し商品化。
ブリやサクラマスなど、船上活〆を実施。
- ・ 漁業経営基盤安定化対策事業の推進
漁具整備、漁船保険掛金に対して補助。



地場産ニシン



ナマコ商品

実施したが、成果があまりなかった施策

- ・沿岸漁場保全（バカガイ漁場）
耕うん、資源量調査を実施。
- ・広域サクラマス資源増大
サクラマス幼魚を生産し、馴致・放流。
- ・アワビ栽培漁業推進
アワビ種苗を購入し放流。

成果がでなかった理由等

- ・資源増加が見えず、事業を中止。（バカガイ漁場）
- ・2年連続、魚病が発生したことにより、当面の間は生産を中止。（広域サクラマス）
- ・放流は継続しているが、漁獲に繋がっていない。（アワビ栽培漁業推進）



バカガイ耕うん作業



アワビ種苗

今後取り組む施策等について

- ・魚礁設置工事
- ・サケ海中飼育推進
- ・マナマコ栽培漁業推進
- ・ひやま地域ニシン復興対策
- ・秋サケ資源増大対策
- ・新たな増養殖技術の確立
- ・地産地消の推進
- ・水産物の付加価値向上
- ・各漁港維持補修
- ・若手漁業者の人材育成のため研修の取組推進
- ・漁業経営基盤安定化対策事業の推進